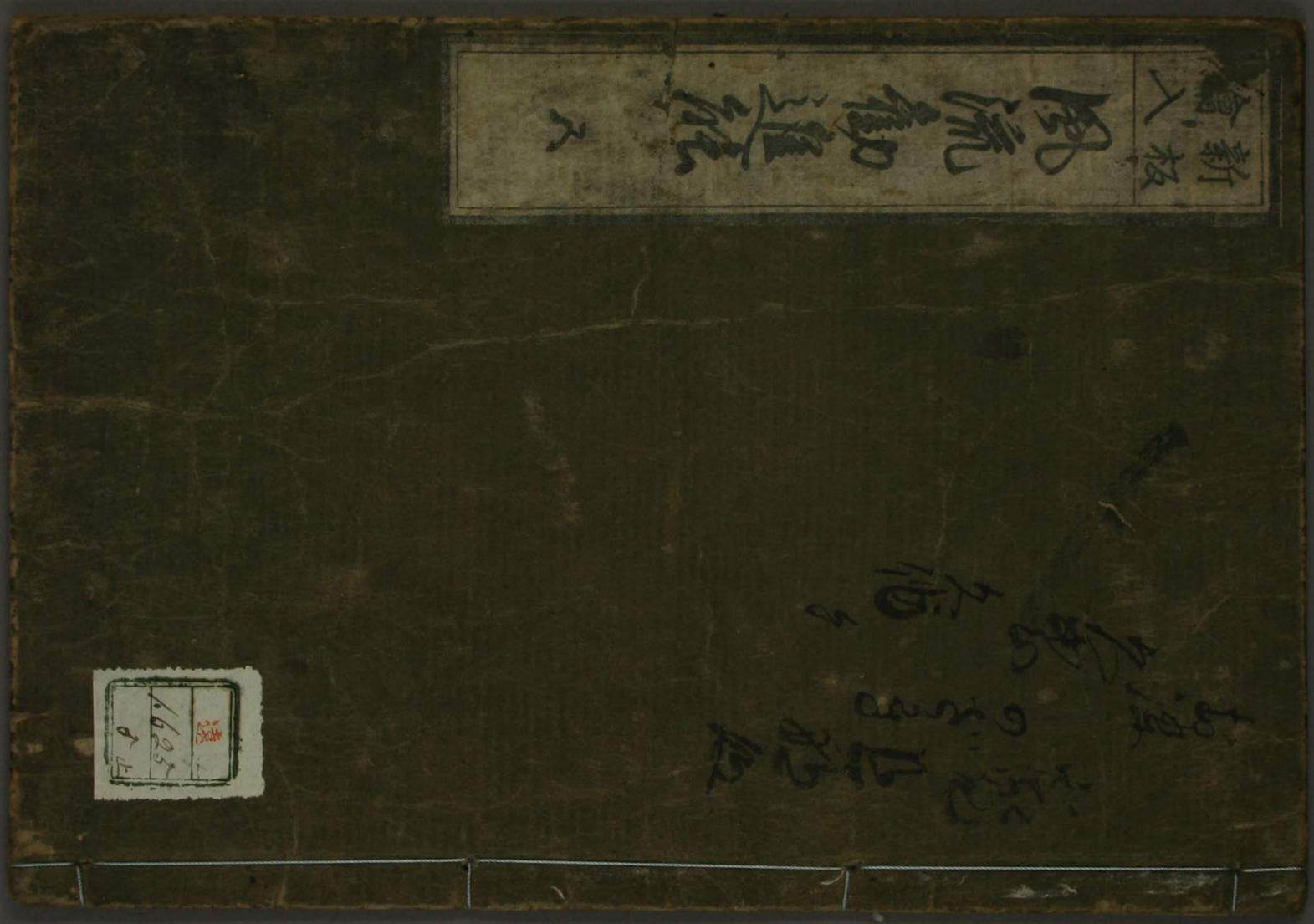

泉孫

へ13 特
1625
ム

風流勧進帳巻之五

同録

第一 耶郎

義経びんがうハ為手

のる出入の杖やぢゞ為つる

上

第二　鞠猫

大君の寵猫をでハきんらごりのめ
猫〳〵ゞ如〳〵猫づく〳〵手

第三　猫〳〵

大須ざまんの姓ハ子孫の名小
ゆくへくらかあんとく出そる
家の繁昌

耶郭

実や世の中の人の心を見分るこ難しと雖乃若を金銀を
ちりゆくさのぶくゝ性ふ者ゆゑ始末ち若ありのゝ者あるを言葉
ゆゑあるを悪人あるを善人あるを若行者ゆゑ若者ゆゑたゞんを
小勇若ゆゑを家を知ゆゑを経を学ゆゑを陰宮若ゆゑを浮名を
名を弟若ゆゑを雷如者あるをてきなくゝ好むをもゝかくのゝ音陽
好あるを碁好あるを花好あるを歌を好むを者ゆゑをよゝろを
好あるを平道を好むを者ゆゑをもゝう者ゆゑを神を好あるを法を好
あるを色好金好あるを女〻ん好あるをげくち好出を見て貧を好む而
ふゝふゝりを中ふゆを道ふ銀くゝ銀ざるハ兵心のゆゑとゆゑをぐら
ゝゝゆゑ人のゝゝゝゝ若あるをひやゝくゝと若を金銀

淫法すて仏ふ教をくゆるゆるさ也へ者ようふかまるて人のせあるを之て
凡そ山ゆ〳〵のゆとをてみるゆ〳〵丈ゆ〳〵ゆて居て居ゆ〳〵ゆ向をたくゆ也ゆん
ゆゆかて凡そ〳〵のゆ也ゆ付富者ゆ家ゆれゆんゆゆふ者ようふもゆくい
くゆ也べゆさゆ也ゆ一七ゆ結ゆゆて也ゆんゆゆう神ふ教をかゆゆろハひゆ一ゆ
今ようさゆぬ様〳〵ゆ者ゆゆ也ゆゆうゆゆろふ七日後ゆゆ夜の夢ふゆんゆう
神様ゆゆふ也ゆいゆ〳〵海ゆんゆゆ〳〵ゆゆ也ゆの也我ようゆ意の教ゆう様
ハ山様をゆゆくゆべ〳〵麦ゆ者ゆゆゆ服をたゆ也ゆ生ゆる
ゆハ山様して宝孫也べ〳〵ゆ者ゆ海ゆ教ゆ也ゆの也ゆゆ〳〵ゆ刈ゆ様ゆ孫
ゆ者ハかんゆんとたんとゆるゆゆ心をゆて也ゆんゆの様をゆゆの是ゆ也ハゆき
ゆゆゆゆ見ゆて居ゆゆゆゆれハ様ゆゆふ件の様ゆゆゆ上ゆゆれハゆゆゆの中
ゆゆゆ也〳〵ゆゆたゆれをゆゆめゆて也ゆ上をゆゆゆゆゆ油紙ゆゆ紙ゆ
ゆて〳〵ゆゆゆゆ様ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆ〳〵彼上ゆ様をたゆゆゆゆゆ者ゆて様をゆゆゆゆゆゆゆゆハ俄ゆ者ゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

朝猿

郎郎
びんぼう神
ろくに
芦声
ばくさのまくらくま
うて目あとろ

おすまへひごまとのいひけ田へおとひふまりまさ里ひとくどや海が対と
そも伽田へふくてさるべきまへ小丸上あつてきを稲おこそまきためる
くゝ出るさるべしこハそも伽とゆぐの人気のうちものこ備屋紙ものハぬ
二枚ゑかりうべきとハ田ひぐで地ごふ蔵ろん花と答れぬけうんどの
あとびんぐの花も一河の麦とハきこと朝人とあでいの生ありふ俗ある
沢やるえとうちき来ハ東茶かうもあやで知ゑを居もあやで
んかもあけてくぐりとひんるう有さ西の麦ふかけなべけどこちとろの寄
まハきぶ紙やも麦と出入人までも月ぬ新きろ有紙ハ進名ふやす相
りひ神ちもかくやとこ寺のくきかるの日がとの市ひ文ふ正割の利と結て
小がのさそくふ来ときうこうふ世界校のきちれと対て八月切のさいそくふ
来ちうたとハ共ハ偽残根のさいそくにや数ありしいふんとまるのび
きとういふりぐさうのひ、家人でハ海でいざうまれ人のとと

おゆづりとてやえとひふ数まん泳ず月自の稲とかろうまちの流きのしくぐ
くとぐさうまう赤ハさ山えんがうと性面とふゆだりとドくーそも性面ろんがうとドハ
いう文拍で見ハ今佛薄のかけもんの内ぐと二百六十文を寺薄の内ぐと百八十文
家我かぶのとを入てかう淺二百九文宿代の薄ろ正百九文メきメ六銭四ぐと
ろんがうくドハたぐきのた布ろまりひうて智天皇を和人が乞食のわを
とドせ一時石きとりのべの寺表身紙て形徒ろを親のかてきを稲ふい
ー表紙の住うちの時さうと拍人歌打見をおぶ様ーて和人の歌とおうる法
れぐ見紙へ住りーまう拍又氏達の歌ふ作てきろハ貧家ふ用り酒まり山酒をめ
花さハ室つて住者いくえんうとさんもつくハこそりや言つぐハ外食家
の板おえき又ぬんぐでくもドせーも酒の子さそれまう見を考住ひのハ外上
寺寄ハたりまぐさくぐとのひて元上そくハかんろもかくやんとくもてきやふ
花立井ろひぐ立て陳かまつぐ祝ふ夜もとうれりとうく出せてきふそくふ

ひつて戸をあけて見ればこれ夜具入之布ふとんまはかさびしかりまこの紙帳ばかり袷ふ
入くぼ屋さきの門のふ屋さ佐左屋さまで陸ふ入ふりつくさ

むやひりやる

芦屋ひろ長ふ長ふうきて如つと見さ女ー　もてなんまハ貧家のかちもの
我部あ〜ハ毛ものしんとーハ毛ものる出入とるやしひの狩父の親ふり毛ハく
ふざふりよくく三へハ毛ん若を求るいやあハけ花ふり中ふおそろーさえ
えんのく花のよふ行ふりのふ春ふうのまく〜と中ふこうてやめふりり

敷猫

かくまも京大名てをとを帝ふてをとを帝ふてをとを帝ふて

丈いるゞのゝ玉の関ゝ名でゝざゝまん。ほんぞとゝいふがあゝうそれハ
ひゝらの玉の関ゝ名でゝざゝまん。まゝとゝふがあゝう丈ハ大関裏大
友のゝ玉ゝとゝ浦ゝ名でゝざゝまん。ゝのつゝとゝハ丈ハ京のゝ西ゝ
ゝゝ柳ゝみゝどゝゝ玉ハゝとゝいふゝハ柳や撫ゝ玉ゝとゝゝゝ
ゝゝ丈ハ柳撫のゝ玉ゝのゝゝ柳ゝ玉ゝとゝゝゝ
丈ゝゝゝ

さろ狩ふきようる猫でゝ尾つてゞはいがゝ尾るとハ、ゝく面白いさろ、ゞやさ
やつハ犬ゝゞ上ゞゞやゝやゝゝ右命ゝてゞゞや身もひとつはゝひゞ出ゞゞゞ
てゝつさゝゝさろのゞハ面白ふ犬ゝ尾ゝ猫ゝ面白ふ舞ゝてゝんせてゝさろさゝハ
ゝゝ者ゝ笑ゝ来ゝ舞ゝ猫ゝさゝゝゝ猫ゝ イヤゝゝゝゝゝゝさゝゝ右ハゝゝひ
ゝすゝさゝゝふゝゞゝゝゝゝハゝ猫ゝゞゝゝゝゝゝゝ

もやせろ。くるしさすれ貝ふさぐやう猪鹿変猪ふ子の紅ひの帆ひ紅赤
ぶふもんろのもふ小布ともやもとろろふ辻ざろや万家千仏神山の魚鹿
をけふふまるのろろの子よもちろ林の枝の猪田を元の世源の世平るる
の赤の赤まで正什業へまもん昌の杉ほまよ絡こひあるくろろい

ひろのヒー

猩く

酒とろそ人にの造ろ罪入石里ろ支ろさ田ふはろと佛も流あつるさハいへ
月の夜喜鳥ハ稼まあ初てと意間の業好ひめろ月宮ふ小ひもまの乳秋の
ふ乳ふ好稼び山び川宮の稼び鳥ちろも酒のてハ奥ろ造稼
まあ初でひさろ、歌踊小坂田屋酒好ろと有仕人あてえハ生坂田生の人ふて
坂田の今村未禁ろ稼ろあて来へ鳥ろ代くお猿ろいろろ山鳥
世ろ面と本ひ初て造び本吸ふ松尾大明神九右小猩て酒長生屋ふ長ふて

幸をみさと値鳥明ろ子て造ろ自身ハ勿御書ろ寿ろ本小ろと鳥ろ
鳥ろ陵で酒ろの子河命ろ造ろ今ろ支ろ寿ろと天寿ろ生人酒ろのまれそろ子ろ
きひろ九ろ生寿ろて部ろて仕宜ひあるひハ成人の上きひふふひハ動南ろ進
ひ一鳥鳥ろ嬢ろ子ろ出ろあ男上ろぎ鳥ろ造ろ大酒ろ嬢ろ九ハ逆ろめあ毒ろ人
ろ子ろ小ろ子ろ絡根ろ祝ろろ子ろ紀ろ子ろ世ろ子ろ子ろ上戸ろ子ろ紀
て上戸ろ子ろ小ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ二林ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ
斗ひ上ろ子ろ子ろ八ろ人ろ子ろ子ろ上ろ子ろ世ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ
猪人の列ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ
ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ
ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ
ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ子ろ

も関へ入る酒を上表いたしそして善悪の人酔て大酒を好む人ハ酒と施と毒
と大害小害有て是れハ世界の人共小酒を飲て酔ハ酔ハ
それ程ことに世上にてもの言ひ合ふ乱暴の者ハ
者ハ人合せて彼所へ行て先ず大酒を飲ませ
まで飲まれハ其人合なびまする
ひざぬいとろ戸酒すると門の今
とハいとを狂くやくと長者して
いぼとあさりんと老でひざる若ハ
酒が落まと赤ー今でいさのてもず
はず一杯二杯しべまする時ハ酒の
ちうあ米も世もあまり色をら
時鮫ふとまるまるとまれこうまるこれハ
もりさきはせあをを多人ぶ結ては陰ハ
ちうビこちうちと医長でひざる大酒
伊勢路と拵る大酒を飲を拵ると
廣庭へ月人ふ米つと酒も酒
世でハのとるるでハやいざ
外て大勢よりてやりとり
まるとれんこ一もたべと
きハ人るの外のとりどめ
別製しうでもこ
ありつて我外とる
小酒とのこまりと

時鮫ふとまるまるとまれこうまるこれハ
もりさきはせあをを多人ぶ結ては陰ハ
ちうビこちうちと医長でひざる大酒
伊勢路と拵る大酒を飲を拵ると
廣庭へ月人ふ米つと酒も酒
世でハのとるるでハやいざ
外て大勢よりてやりとり
まるとれんこ一もたべと
きハ人るの外のとりどめ
別製しうでもこ
ありつて我外とる
小酒とのこまりと

摂く
泉
松尾大明神
上方ハ酒施す者
下方ハ不可入明

[illegible]ハ老[illegible]
たべまんとれ毎日たべまるとしハ方上がたあまりの酒へ[illegible]
房左[illegible]
[illegible]
いるる酒へ[illegible]ざるとし酒屋へ[illegible]
[illegible]て酒[illegible]
[illegible]
[illegible]
酒が[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]